

外来担当医表

土曜日は休診です

※2013年4月1日現在の内容です。

※担当医は予告なく変更になることがあります。

	月	火	水	木	金
午前	中島	野本	村上	横田	松本
午後	石川		城野	藤永	
予約			城野	(非常勤)	

病院理念

心を病む人の立場に立った専門的精神科治療の提供を行う
地域への精神科医療の啓発活動を通じて心を病む人のみならず、地域住民の心の健康増進に貢献する

- 地域の様々な資源との連携の強化を目指します
—医療・福祉・教育・産業・地域社会と積極的な連携が出来るように—
- 良質で安全な医療の提供を目指します
—相手の立場に立ち、私達が安心して自分の家族を任せられるように—
- 専門性を高め、より高度な知識・技術の向上を目指します
—新しい技術・知識の習得、研鑽を心がけるように—

患者の権利

1. 良質な医療サービスを平等に受ける権利があります。
2. 人格・意思が尊重され、人間としての尊厳を守られる権利があります。
3. 自分自身の診療に関する情報の提供を受ける権利があります。
4. 医療従事者から説明を受けた後に、提案された診療計画などを自分で決定する権利があります。
また、他の医療機関の医師の意見（セカンド・オピニオン）を求める権利があります。
5. プライバシーを尊重される権利があります。



医療法人横田会 向陽台病院

〒861-0142 熊本市北区植木町鎧田1025
TEL: 096-272-7211 FAX: 096-273-2355

<http://www.koyodai.or.jp/>



当院は、2005年から財団法人日本医療機能評価機構の認定を受け、2010年にVer.6.0で再認定されています。



当院は「情報公開レベル優良施設」として、はとあと評価（認定3/Stage-1）の第三者評価認定を受けています。

● 日本精神神経学会専門医研修指定病院 ● 日本精神科病院協会認定専門医研修病院

こ も れ び



今号の表紙：デイケア・病棟の患者さんによる合同作品 タイトル「タンポポ」

病気のおはなし
発達障害

社会福祉事業の活動紹介
グループホームを新しく開設しました

患者さんに話してほしいこと

こもれびリレーエッセイ

第9回・由野島 寿美子

そよ風家族会通信

こもれびぷらざ

託児所「さくらんぼ」

KOMOREBI
2013.Spring
vol. **37**



医療法人横田会向陽台病院は今年9月、創立50周年を迎えます。

執筆者：院長 中島 央

発達障害

最近の精神科医療では、「発達障害」という言葉をよく耳にします。児童思春期の精神科を標榜する当院では、耳にするどころか日常的に飛び交い、定着した言葉です。病名として使われますから、よく診断名としても使われています。実際にそういった「診断を受けた」方も、身近にそういった方がいらっしやる方も多いのではないのでしょうか。



発達障害とは、脳の高次の機能と考えられている、ものを考えたり、判断したり、感じとったり、行動したりする能力の発達に、平均的なところと比べると偏りやちぐはぐさがあり、社会的な活動に支障がでてくる障害です。つまり、発達障害を持つ人は、生活、学習、仕事や対人関係などのいろんな面で、苦手なところや不器用なところが目立ってきて、不適応をおこしやすくなるということになります。この発達障害の考え方は、最近になって急速に普及していて、医療だけではなく学校の現場でも注目され、「特別支援教育」の対象になっていきます。僕が小・中学校のころにはほとんどなかった考え方で、し、精神科の研修医のころにもあまり教わらなかった考え方でした。

発達障害の代表的なものに、広汎性発達障害（PDD）、注意欠陥多動性障害（AD/HD）、学習障害（LD）などがありますが、ここではPDDを例にお話します。

PDDは、自閉症から軽い自閉症傾向までの広い範囲の発達障害を含み、日本では馴染みのある「アスペルガー障害」も含まれます。現在のところはPDDですが、新しい米国の診断基準では、自閉症スペクトラム障害（ASD）となりますので、日本の中でも、さまざまな呼び方があって、混乱している部分もあります。

PDDの特徴は、社会的なコミュニ

ケーションや対人関係での相互交流がうまくできずに、興味や活動の幅が狭く、こだわりが強い行動パターンを繰り返すところにあるようです。程度が強いと健診などで自閉症と診断されますが、多くは就学してから孤立したり、「空気が読めない」「言われたままに受け取ってしまう」といったコミュニケーションの問題が生じたりして認識されるようです。また最近では、いじめの被害にもあいやすいようで、不登校に陥ってしまう子どもも多いようです。成人してからは、いわゆる「ひきこもり」の状態になるケースも多くあります。一方で、興味のあるものには深く追求する特性からか、学問や芸術の世界やさまざまな専門家として成功するケースも多いようです。伝記などにもなっている、ファールブルやエジソンはその典型と言われています。

ここまでお話するとPDDをはじめとした発達障害の場合は、「うつ病」や「統合失調症」といった、従来から精神科で使われていた病名とは多少違った使われ方をしているようにも見えますね。これは、従来の精神疾患が、ある人に「起こった」「異常な状態」を指すのに対し、発達障害は、ある人が「持っている」「片寄った」「性質」を指すことに由来しています。うつ病などになった人は「病気がなかった」のであって、発達障害を持つ人は「特性を持っている」ということになり

ます。特性ですから、その人がもともと持っているものではありませんが、決して「治らない病気」ということではありません。従って、特性ということを考えて、発達障害の臨床においては、それを治療するというより、「特性を理解し上手くコントロールする」ということがとても大切なことになります。一方で、相談や治療に来られる方の多くは、環境に対して何らかの不適応を起していることがほとんどですから、不適応から生じる、不安や抑うつなどの治療をまず行うことも多くあります。また、いじめなどのトラウマも大きく影響していることもあり、ケアが必要になることもあります。特性をコントロールするためにも、それらの二次的な障害を治療することはとても重要です。

特性ということをもう一つ考えると、これは病気と違っていわゆる「程度問題」であり、大人になっても多少それは残っていく、ということです。例えば、PDDの場合、実際にその診断がつく人は、かなり多く見積もっても同年齢の子どもの中の1〜2%ですが、正常との間にグレーゾーンがあって、「PDDの傾向がある」「子どもはその何倍もある、ということになります。そしてこれは、大人にも言えることです。

PDDだけではなく、AD/HDやLDなどまで含めると、大人から子どもま

で一般に暮らしている人の中には、多少なりとも発達障害の傾向を持つ人は相当たくさんいる、ということをご理解いただけたでしょうか？ ちなみに僕は、小さいころから相当に忘れ物が多く、片付けが苦手で、かなりはつきりとしたAD/HDの傾向があることを自覚しています。ある時期まで極端に漢字を書くのが苦手だったので、LD傾向もありました。つまり、発達障害の視点からみると、そこでみられるいびつさは、けっこう一般的にいろんな人が抱えていて、皆それと付き合いつつ生きていて、ということになりますでしょうか。まあ、この世に完璧な人間などいるはずはなく、発達障害的ではないにしろ、人それぞれそれなりの偏りやいびつさは持っているものです。それにもかかわらず、発達障害が何かこう特別な目で見られたり、「治らない病気」として扱われたり、発達障害を持った子どもがいじめの対象になったりしているのは、とても悲しいことです。この現状を見て、僕たち精神医学にたずさわる人間は、いつかきた精神分裂病の轍を踏まないようにしなければなりません。

発達障害の考え方が入ってきて、精神医学の中身もずいぶん影響を受けました。ただ、新しく普及した考え方はきちんとした理解を必要とします。この稿がその一助となりますように。



グループホームを新しく開設しました

執筆者：社会福祉事業 管理部長 麻生 美子

平成25年3月から2つの新しいグループホームが向陽台病院東側に隣接してオープンいたしました。1階をコモド(Comodo)、2階をセ・ピアチェ(Se.Piace)といいます。少し難しい名前ですが、イタリア語で「気軽に」と「〜のように、自由に」という意味から、利用者の皆さまが、よりいっそう夢が膨らむように願いを込めました。日当たりも良く景色も最高の場所です。いずれも10部屋で、スタッフも5名増えました。

また、他のグループホーム「ひまわり」「くすの木」「かしの木」「陽だまり」など43名の入居が可能です。これからのご利用をお待ちしております。

このようなグループホーム事業と、就労継続支援B型事業の「WORKSみらい」では、就労の場所の提供と、社会人としての心構えや、働くことの自覚と自信を持てるよう、利用者自身が主体的に取り組めるよう工夫しています。

作業内容は、印刷・環境美化・喫茶「向(さき)」です。少しずつA型事業への移行や一般就労を目指してがんばっています。また、地域活動支援センター「なでしこ」では、生活のしづらさで困っている方の居場所の提供とともに、料理、小物作り、書道や絵画などの日々の活動と、地域活動への積極的な参加で、障がい者の啓発活動を行っています。



2階ダイニング

じています。長期入院者の退院支援や障害福祉サービスの利用計画書の作成など、忙しい毎日を送っていますが、よりよい支援ができるようにと努めています。

います。時間の過ごし方に迷ったときや困ったときなどお気軽にお立ち寄りください。

相談支援事業では、障がいのある方（児童を含む）やそ

活や経済、就労支援、障害福祉サービスの利用など、さまざまな相談に応じています。

まな相談に応じています。

障害福祉サービスの利用計画書の作成

など、忙しい毎日を送っていますが、より

よりよい支援ができるようにと努めています。

ます。

お問い合わせ先

社会福祉事業

TEL.096-272-7214

月～金曜日：9～17時

入所までの流れ

①相談受付

電話での相談、ご質問、パンフレットのご請求、ホームのご見学を受け付けています。

②ホーム見学

ホームの雰囲気、室内や周囲の環境など、実際に現地に足を運んで見学していただけます。ホームでの利用規約などもご確認ください。

③入所前面談

ホーム担当者が面談を行います。ご本人の現在の状況とご希望、留意すべき事柄などの確認をさせていただきます。

④受給者証手続き

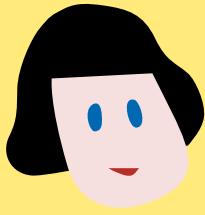
居住地の市町村福祉課で、障害福祉サービスの申請手続きが必要になります。

⑤契約

当ホームの内容をご了解され、入居の同意が得られましたら、ご利用のための契約書を交わします。

⑥入所

すでに入居されておられる入居者と利用規則に則り、共同生活がスタートします。



患者さんに話してほしいこと

執筆者：診療部 医局長 松本宏美

診察場面で医師が患者さんから聞きたい内容は、主に①主訴、②既往歴および家族歴、③アレルギーの有無、④今回受診に至った経過で、内科や外科と大きな違いはありません。しかし、他科よりも、より詳細に「言葉で」お聞きするというのがあり、これがひとつの特徴と言えるでしょう。では、それぞれの内容を詳しくみていきましょう。

① 主訴

簡単に言うと「受診した主な理由は何か」ということです。もっと平易な言葉で表現すると、「何をどうしたいのか」です。例えば、内科であれば「のどが痛いので痛みをなくしてほしい」とか「咳が止まらないので止めてほしい」などがあるように、精神科でも「眠れないので薬がほしい」とか「対人関係が上手くいかず仕事が長続きしないのでなんとかしたい」というような内容をお聞かせください。

② 既往歴および家族歴

今までに罹患したことのある疾病や傷病を確認します。糖尿病や高血圧など、他の病院で処方されている薬がな

いのかなども同時に確認をして、薬物療法を開始する時の情報とします。また、現在の症状に何か影響している身体疾患はないかを確認します。場合によっては、その身体疾患の治療が優先されたりもします。その治療によって精神症状が改善することがあるからです。もちろん、身体疾患と精神疾患が合併している時もありますので、その場合は内科と精神科の双方での治療が必要になってきます。遺伝性疾患の可能性も踏まえ、ご家族の疾患に関してもお聞きしています。

③ アレルギーの有無

主に薬物および食物に対するの確認になります。薬物療法を開始する時には薬剤調整が必要です。また、入院治療を開始する場合には食事提供も治療の一貫としてあるため、アレルギーのある食材を提供しないよう留意しているからです。

④ 今回受診に至った経過

例えば「気分が落ち込んでしまつ」というのであれば、
A それはいつから

B 何をきっかけに

(きっかけがあるのかなのか)

C 段々と悪化しているのか、急激なものなのか

D 他に伴う症状はあるのかなのか

…などをお聞かせいただければと思います。それによって、その症状の罹患期間や経過などがわかり、おおよその疾患の検討をつけることができます。

精神科は、内科や外科のように血液検査やレントゲンなどで判明するような疾患はほとんどありません。一部、明らかな異常体験の存在により判明する統合失調症や、認知症のように画像診断などである程度の見当がついたりする疾患もありますが、その他のほとんど(心理検査などの施行も含め)が、患者さんの協力なしには診断に至ることができない疾患を扱っています。そのため、患者さんには、自らの症状に関して正直に語っていただくことが、正確な診断・適切な治療を行うこと、すなわち、良好な治療関係を築く大切な条件となりますので、ぜひともご協力をお願いします。

こもれびりレーIッセイ

● 第9回：看護部 北3病棟師長 由野島 寿美子

自然と人のつながりの中で生きる

「ワサギじゃないけど、庭の赤とんぼや蛸はよく追いかけたなあ」「夏休みの午後は、毎日熱帯魚すくいしたよね」…唱歌『ふるさと』を聞くといつも小学生のころを思い出す。野焼きの後に芽吹いたわらびを摘み、れんげ草のじゅうたんで転げまわり、背丈より高い草や小笹を組んで秘密基地を作った。稲刈り後の田んぼで脱穀機や発動機が動き、父が稲むらに包んだ生卵を発動機の湯だまりに入れてゆで卵を作ってくれた。祖父に連れられ、駅前からボンネットバスに揺られて地獄温泉に行き、湯上りにはみやげ物屋で駄菓子やおもちゃを買ってもらい、帰りは極楽、極楽。宮祭や地元の植木市の日には200円もらってランドセルを放り出してかき出した。大雪の日はお宮の長い参道がソリ遊びのジャンプ台。自然は満載、カルデラの中を走る列車の汽笛で生活時間を知る、地域の人は皆顔見知り、そんな田舎暮らしで楽しかった情景と、その時々のがいまいで思い起こされる。

中学・高校と生活範囲が広がるにつれ、新しいもの、おしゃやかなもの、近代的なものに憧れ、都会への憧れも膨らんだ。結局、看護学校を卒業し、熊本市内の病院に就職したが、緊張の連続と市内の暑さで3カ月後に倒れた。アパートで寝ている時、やっぱり自分一人では生きられないな、と思った。

『癒し』とか『絆』とか、そんな言葉が氾濫し、最近こそ少なくなったが、有名人が「元気を与える」とか「勇気や感動を与える」とか言っているのを聞くと、「ちよつと違ふよね」と思ってしまう。

当院がモデルにしているのぞき総合心療病院の理念に「スタッフも患者さんも家族も施設も庭も木も、全ての資源を治療のために」とあった。患者さんに限らず、大切なものを失くしたり、疲れた心や傷ついた心には、たたみ掛けるような働きかけよりも、話を聞いたり寄り添うことで人とのつながりを感じたり、自然の中に身を置くことによって穏やかな気持ちになり、生きている実感や希望を「自分で感じとれる」ことが大切なのではないかと思う。

故郷を離れて暮らしている人、心の治療を受けている人、社会の中で苦悩する人、全ての人に、優しい自然と人のつながりがありますように。

▼次回予告 医療管理部 診療情報管理室室長 本田幸恵にバトンタッチ



そよ風家族会 通信

事務部 医事課 前田 紗代子

平成25年1月26日(土)、そよ風家族会の新年会が開催されました。大寒らしく朝から厳しい冷え込みとなりましたが、23家族(27名)と、たいへん多くの方にお集まりいただきました。

当日は会長あいさつに続き、3つのグループに分かれて家族交流会を行い、日ごろの思いや疑問について話し合いました。初参加の方もおられ、はじめこそ緊張した面持ちでしたが、話し合いが進むうちに笑顔も見られるなど、和やかな雰囲気となりました。

ご家族のさまざまな意見が出されるなか、病状や本人との接し方について「病気をなかなか受け入れることができない」、「本人にどのように声をかけたら良いか分からない」という相談の声も聞かれました。それに対して、他のご家族がご自身の経験を織り交ぜながらアドバイスされる場面も見られ、周りの方も真剣な表情で耳を傾けられている姿が印象的でした。

また、医療制度や福祉施設など社会資源の活用に関する話題になると、病院スタッフに質問をされたり、ご家族同士でも活発な情報交換がなされたりと関心の高さが窺われました。

会の終わりには、ご家族から「同じ気持ちの方がいることが分かり、参加して良かった」という嬉しい言葉も聞かれました。それぞれの家族で置かれた立場や環境に違いはありますが、病状を理解し、適切な対応について考える姿勢は共通であり、そうした支えが本人の療養や社会復帰への意欲を高める大きな力になればと願っています。病院スタッフにとっても今回の会がご家族の思いを改めて知る機会となっただけでなく、皆さまの活力の一助となるよう、今後の取り組みへ向けて気持ちを新たにすることができました。

家族会は年に4回の定例会を中心に開催しています。ご家族同士の交流を主眼に、講師の方をお招きしての講習会や交流会を通して悩みや不安、疑問を共有し、自由に語り合える場です。今後も皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

次回の予定

● 平成25年4月27日(土)

午前10時～午後12時

▼会場：リユニエール活動室

詳しくは

☎096-1272-1721

までお問い合わせください。

こもれびぷらざ

向陽台病院の最新ニュースやお知らせなどをお届けします。



託児所『さくらんぼ』

総務部 保育士 田村 貴恵

医療法人横田会の託児所『さくらんぼ』は、地域活動支援センター「なでしこ」2階の日当たりの良い場所にあります。職員の子どもを対象とし、平成6年10月にオープンし、今年で19年目に入りました。現在、0歳から3歳までの17名が毎日元気に登所しています。

毎朝の健康チェック（検温、機嫌、元気さ、顔色の観察など）から始まり、天気の良い日には、近くの公園や神社、サイクリンググロッドへ散歩に出かけます。途中、花見をしたり、草花を摘んだり、石や砂で遊んだり…自然と触れあいが



消防車にみんな興味津々！

ら季節の移り変わりを楽しんでいます。

どんなに暑くても、寒くても、散歩に行くのが子どもたちにとって一番の楽しみようです。夏場はベランダでの水遊びが大人気です。ハサミやのりを使つての製作（クリスマスのリース、節分の鬼、おひなさまなど）では、毎回個性豊かな作品ができています。

安全面においては、現在問題になっている突然死防止のため、睡眠中は5分おきに呼吸を確認し、事故のないように努めています。

かわいい時期の子どもたちと関わって仕事ができることに感謝しています。自ら試行錯誤しながら、心身ともに成長していく姿を子どもの目線に立ち、適切な援助を心がけ、温かく見守っていききたいと保育士一同願っています。



工作の時間でひなかざりを作ったよ



みんなでお出かけするときは
歳上の子がお姉ちゃんらしさを発揮☆

診療のごあんない

- 診療科目：精神科・心療内科・児童精神科
- 特殊外来：児童思春期（発達障害）外来
- 病 床 数：202床
- 外来診療時間
【月～金曜日】 午前 9時40分～午後4時
（ただし、受付は午後12時30分まで）
【土・日曜日】 休診

祝日は平常どおり診療しています

交通アクセス

- 産交バス 向坂バス停から徒歩3分
 投刀塚バス停から徒歩3分
- 車  植木ICから10分
- JR  植木駅下車 → タクシーで6分

アクセスマップ



初めて受診される方へ

当院は**予約制**です。

初めての方は、**地域連携室**へお電話ください。

☎ 096-272-5250

電話受付時間

【月～金曜日】 午前9時～午後4時30分

電話の際、①お名前 ②相談内容 ③連絡先 などをおうかがいし、予定の日時を決めます。

当日の所要時間は問診や診察、検査などを含め、**2時間程度**とお考えください。

動向を探る

向陽台病院を利用されている患者さんの動向を掲載しています。

集計月	外来延数	新患者数	1カ月ごとの入退院者数	
			入院	退院
2012年 12月	2,544	48	35	36
2013年 1月	2,498	47	31	44
2013年 2月	2,568	48	44	37

(単位：人)

「こもれび」に関するご意見・感想をお待ちしています！



私たちは「こもれび」をとおりて、皆さまに役立つ情報をお届けできればと作成しています。皆さまの率直なご意見をお聞かせください。(向陽台病院 広報委員会)

編集後記

「こもれび」の発行にたずさわるようになって、この春で一年が経ちます。「こもれび」ができるまでの流れがやっと理解できた程度ではありますが、いろいろな方々の想いと努力が詰まった広報誌だと実感しておりますので、今後またくさんの方々に読んでいただけるよう工夫をしていければと思います。よろしくお願ひします。

(広報委員会 中野愛)